

【主な出来事】

- ナスターセ副首相がキシニョフ市長選挙へ出馬を表明。民主党の新党首にはフィリップ前首相が選出された。
- ドドン大統領、ポペスク外務・欧州統合省が相次いでロシアを訪問。グレチャヌ議会議長は中国を訪問。

1. 内政

▼ナスターセ副首相、キシニョフ市長選挙へ出馬

・5日、サンドゥ首相(PAS党首)は、ナスターセ副首相(DA党首)が来たる10月20日の地方選挙のキシニョフ市長選挙においてACUM候補として出馬することを明らかにした。社会党からは、チェバン議会副議長が同市長選挙への出馬を表明している。

▼民主党、フィリップ前首相を新党首に選出

・7日、キシニョフにおいて行われた民主党臨時党大会においてフィリップ前首相が民主党新党首に選出された。フィリップ前首相が唯一の候補者であり、党大会に出席した約700名の代表者の総意で選出された。フィリップ新党首は、党員からの信頼に謝意を述べつつ、民主党に対する支持を獲得し、成功に導くことを約束した。

政府

▼各省次官人事

・4日、政府は新たに5人の各省次官を任命した。モルチャン外務・欧州統合相次官は再任された。

▼検事総局設置法の改正案採択

・13日、政府は検事総局設置法の改正案を採択した。主な改正点は、検事総長の任命手続き及び最高検察評議会委員の人数の変更。

議会

▼秋冬会期が召集

・2日、議会の秋冬会期が召集された。

2. 外交

▼ドドン大統領のロシア訪問

・2日、ドドン大統領はロシアを訪問し、コザック副首相と会談した。会談では、モルドバ・ロシア経済協力政府間委員会の開催、ロシア市場で認められるモルドバ農産品リストの拡大、天然ガスの供給、第2回モルドバ・ロシア経済フォーラムなどについて話し合われた。会談にはブルンザン経済・インフラ相も同席した。

▼ドドン大統領のブリュッセル訪問

・5日、ブリュッセルを訪問中のドドン大統領は、ストルテンベルグNATO事務総長と会談した。ストルテンベルグ事務総長は、モルドバの憲法上の中立性をNATOは完全に尊重しており、独立と主権を支持する旨述べた。これに対し、ドドン大統領は、中立性とバランス外交はモルドバの優先政策である旨述べた。

▼ドール欧州人民党党首のモルドバ訪問

・5日、サンドゥ首相は、モルドバを訪問中のジョセフ・ドール欧州人民党党首と会談した。ドール党首は、汚職の撲滅、司法の独立、法の支配の重要性を強調しつつ、サンドゥ内閣の具体的な行動によってEU内でモルドバは改めて信用を得ることができた旨述べた。

▼外務・欧州統合省、クリミア「地方選挙」を認めず

・8日、外務・欧州統合省は、同日クリミアで行われたロシアの「地方選挙」の結果を認めないと発表した。

▼ポペスク外務・欧州統合相のウクライナ訪問

・9日、ポペスク外務・欧州統合相は、ウクライナを訪問し、プリスタイコ・ウクライナ外務大臣と会談した。両外相は、国境管理、ドニエストル河の環境保護、輸送の自由化、欧州統合、トランスニストリア和平等について議論した。

▼グレチャヌ議会議長の中国訪問

・9日、グレチャヌ議会議長(社会党党首)は、第8回欧州アジア経済フォーラムに出席するため、他の社会党議員らとともに中国西安を訪問。

10日、グレチャヌ議長は、同フォーラムでスピーチを行い、モルドバは一带一路構想に特別な関心を有している旨述べるとともに、2014年に両国で署名された同構想に関する協力覚書は発展のための新たな機会を提供した旨述べた。会合のマーゲンでグレチャヌ議長は胡春華副総理と会談し、両国のビジネス、投資誘致、インフラ・プロジェクト、観光分野での協力について協議した。

・11日、グレチャヌ議長は、栗戦書全国人民代表大会常務委員長と会談し、中国共産党との協力強化に期待を示しつつ、中国からの投資誘致に関心を示した。これに対し、栗戦書常務委員長は、中国はモルドバからのワイン及び農産品の輸入、インフラや教育関連のプロジェクトに関心を持っている旨述べた。

・グレチャヌ議長は、中国企業ファーウェイを訪問。

▼ポペスク外務・欧州統合相のロシア訪問

・11日、ロシアを訪問中のポペスク外務・欧州統合相は、ラブロフ露外相と会談した。

・ラブロフ外相は、二国間関係や国際関係、トランスニストリア和平を含むあらゆる側面に対話を継続する姿勢を示すモルドバ側の対応を評価している旨、また、対露関係の正常化に関心を示すポペスク外相及びサンドゥ首相の発言に留意している旨述べた。また、モルドバ国内でロシア語話者が尊重され、ロシア人特にジャーナリストの出入国の自由が確保されることが重要である旨述べるとも

に、ロシアはモルドバの独立、中立、政治的安定、民族間融和を支持する旨述べた。

・これに対し、ポペスク外相は、モルドバにとってはロシア市場への完全なアクセスが回復されることが重要である旨述べつつ、それはEUとの連合協定と相反するものではない旨述べた。トランスニストリア和平については、実行可能な解決策を見つけることへのロシアの支援を期待している旨述べるとともに、ロシア軍の撤退は引き続き求める旨強調した。

▼モンシャラン仏欧州問題担当副大臣のモルドバ訪問

・13日、サンドゥ首相は、モルドバを訪問中のモンシャラン仏欧州問題担当副大臣と会談し、EUモルドバ間のいくつかの連結プロジェクトについて協議した。

・また、モンシャラン副大臣はブルンザン経済・インフラ相との間でキシニョフ・ウングエニ間の鉄道リハビリ計画の融資にかかる覚書に署名した。

3. 経済

▼オーストリア IT 企業によるモルドバ IT 企業の買収

・1日、オーストリアのIT大手S&T AG社は、Bass Systemの株式の51%を5.7百万ユーロで獲得した旨発表。Bass System社は、プラホトニク前民主党党首関係者によって運営されている。

▼2019年上半期の対ガスプロム債務

・3日、ガスプロム社は、2019年6月時点におけるモルドバガス社の債務が64.4億レイ(3.58億ドル)となった旨発表した。債務の多くは、ティラスポルトランスガス社によるもので、2006年以降、ガスプロム社に代金を支払っていない。

▼DCFTAのモルドバへの影響

・3日、ベルリン経済研究所は、モルドバは東方パートナーシップの3カ国の内で、DCFTAの恩恵を一番受けていると公表。2013～18年の5年間にモルドバは対EU輸出が60%増加した。ウクライナ20%、ジョージア9%。・同研究所によれば、2013～18年のDCFTAの実施により、モルドバからEUへの輸出額は増加したが、輸出の多様化には寄与しなかった。輸出が増加したのは、157品目に限られた。

▼政府、キシニョフ空港の民営化を白紙に

・4日、政府は、キシニョフ空港の民営化に関連して2012～13年に行われた数々の政府決定を無効とした。スタマテ法相は、憲法裁判所が差し止めていたにもかかわらず前政権がそれを尊重せずに民営化を進めていたため、法務省は改めて裁判所の判断を仰ぐとした。

▼税制改革法の施行

・6日、ドドン大統領は、今夏IMFとの間で合意した税制改革法に署名し、官報に掲示された。これによって、ホテル・レストラン・カフェ業の付加価値税はこれまでの10%

から20%へと引き上げられる。

▼中国系ショッピングモールの売却

・8日、中国投資グループのShang Lian国際グループは、モルドバで倒産したメガロポリスモールを競売にかけると発表。競売開始価格は、建物と附属の土地を合わせて173.7百万レイ(9.7百万ドル)。

▼金属くず輸出のモラトリアム

・9日、経済インフラ省は、金属くず関連業の取引と輸出を2ヶ月間モラトリアムすると発表。これにより、トランスニストリアにあるモルドバの金属くずを回収するMetalferos社とそれを買入れているルブニツァ金属工場がモラトリアムの対象となる。この措置は、金属くず関連業の独占の解消を目的とするもの。

経済協力

▼世銀“競争性拡大”プロジェクトの延長

・2日、世銀がモルドバで実施する競争性拡大プロジェクト(PAC II)の内、中小企業に対する無償援助の枠組み2.8百万ドルが2021年7月30日まで延長された。2015～21年までとなる本件プロジェクトは、ビジネス開発及び輸出の可能性を高めるサービスに対し、一社あたり30万レイ(16.7千ドル)を供与する。

▼スイスが医療機材4.1百万ユーロを供与

・10日、スイス開発協力庁は、モルドバ国民全てに医療サービスを行き渡らせることを目的とした4.1百万ユーロの医療プロジェクトを実施する。同プロジェクトは、2023年4月までに実施される予定。

▼ドイツとルーマニアの協調援助による下水処理施設の完成

・13日、モルドバ南部カフル県ロシュ村で下水処理システムが完成した。総額96.7万ユーロの内、72万ユーロがドイツ政府から、19万ユーロがルーマニア政府から支出された(残り5万ユーロは地方政府が負担)。

各種統計

▼8月の外貨準備

・6日、モルドバ国立銀行は、2019年8月末の外貨準備額が29.15億ドルであり、前月比37.18百万ドルの減少と発表した。減少の理由は、外債関連の支払い47.53百万ドル、財務省支払い7.33百万ドル、為替レートの悪化分3.21百万ドルなどが影響した。

▼8月のインフレ率5.5%

・9日、国家統計局は、2019年8月時点のインフレ率が5.5%になったと発表した。増加の主な要因は、食品8.3%。

・同月の消費者物価指数は、前年同月比99.97%。

(了)